福島子どもプロジェクト２０２６夏

地球が教科書

海をこえて「世界」を広げる船旅へ



活動の記録

PEACE BOAT

PBV ピースボート災害支援センター

みなみそうま こどものつばさ

福島子どもプロジェクトとは

２０１１年の東日本大震災と原発事故直後、福島県の子どもたちは「屋外で十分に身体を動かせない」「仮設校舎や避難先で落ち着いて勉強できない」など厳しい生活環境を余儀なくされました。
そこでピースボートは、子どもたちに夢と健康を届けたいとの思いから、保養と国際交流体験を提供する「福島子どもプロジェクト」を震災直後に立ち上げました。そして、船上での体験プログラムや滞在型の環境学習など、さまざまな取り組みを実施してきました。このプロジェクトは、南相馬の子どもたちに保養や教育を提供するＮＰＯ「南相馬こどものつばさ」など現地パートナー団体と協力しつつ、ピースボートとピースボート災害支援センター（ＰＢＶ）が共同で実施しています。
福島の子どもたちが置かれた状況は、時間と共に変化し複雑にもなっていますが、ピースボートは子どもたちのさまざまなニーズを聞き取りながら、支援活動を続けていきます。
これまでにのべ130名の子どもたちがプロジェクトに参加し、寄港地や船上で異文化理解や国際交流を経験しました。

https://peaceboat.org/projects/fukushima_youth.html

特定非営利活動法人　南相馬こどものつばさ

東日本大震災による原発事故発生後、放射能の影響により戸外での活動制限が続いていた子どもたちを、心身ともに解放したいとの願いから２０１１年６月に発足。市内小中学校ＰＴＡ連絡協議会のメンバーと県外の支援者が手を結び、学校の長期休暇期間に保養を目的とした林間・臨海学校を提供する活動を続けている。

https://www.kodomonotsubasa.com/

福島子どもプロジェクト２０２６夏



今年は「地球が教科書　海をこえて『世界』を広げる船旅へ」をテーマに、活気あふれる台湾や韓国で異文化を体験し、古くからアジアの国々と貿易を行ってきた沖縄で歴史を学び、広島、長崎では平和について考え、世界の広さと日本各地の魅力を体験しました。
また、船内では日本や中国、台湾、韓国などからの参加者との国際交流や語学レッスンなどを通して、国際的な視野を広げました。

◆期間
２０２６年７月２６日～８月６日　１２日間
「日本一周クルーズ　２０２６年夏」の横浜～釜山区間に乗船

◆行程概要

日付	活動場所	活動詳細
７月２６日（日）	横浜（神奈川県）	南相馬出発、陸路で横浜港へ 横浜大さん橋到着 ピースボート（パシフィック・ワールド号）乗船
７月２７日（月）	洋上	被爆者の花垣ルミさんのお話を聞く ノーベル平和賞洋上特別展を見学
７月２８日（火）	広島（広島県）	平和公園近辺にて平和学習 ・原爆ドーム

		・広島平和記念資料館　など。
７月２９日（水）	洋上	Ocean Upcycle ワークショップに参加 ウェルカムセレモニーに参加
７月３０日（木）	洋上	南相馬の魅力を紹介する企画を行う
７月３１日（金）	基隆（台湾）	九份観光 ランタン上げや台湾ローカル線(平渓線)を体験
８月１日（土）	洋上	ブリッジ（操縦室）見学 船内プールや子ども遊び広場にて、船内で出来た友達と交流
８月２日（日）	那覇（沖縄県）	沖縄美ら海水族館訪問 国際通り散策
８月３日（月）	洋上	福島こどもプロジェクト主催の交流会企画を行う 洋上夏祭りに参加し、多国籍・多世代の人と交流
８月４日（火）	長崎（長崎県）	軍艦島観光クルーズに乗船 大浦天主堂やグラバー通り散策
８月５日（水）	釜山（韓国）	ピースボート（パシフィック・ワールド号）から下船 釜山市内にて甘川文化村や国際市場などを散策
８月６日（木）	釜山（韓国） 横浜（神奈川県）	空路にて金海国際空港（韓国）から成田空港（日本）へ 成田空港から陸路にて南相馬へ

※ピースボート日本一周クルーズ　２０２６年夏（日本一周クルーズ２１日間）の旅程については、以下を参照：
https://www.pbcruise.jp/cruise/2026japan/

◆参加者（※五十音順）
荒 翔琉　　（原町第一中学校：１年）
泉田 紗希　（大熊町立学び舎ゆめの森：７年）
泉田 康貴　（原町第一中学校：３年）
齋藤 陸斗　（原町第二中学校：１年）
酒井 千代乃（原町第一中学校：２年）
高野 翔成　（原町第一中学校：１年）
徳澤 一馬　（原町第一中学校：１年）
蒔田 琳陽　（鹿島中学校：２年）

◆引率スタッフ
西 恵美莉

◆ピースボート事務局
橋本 舞／越智 信一朗

◆活動の記録

７月２６日（日）／ Day1 ／南相馬市出発、ピースボート乗船



ピースボート 日本一周クルーズ ２０２６年夏「福島こどもプロジェクト」１２日間の旅がスタートしました。今回は、南相馬から計８名の中学生が参加します。
初日は朝６時に原ノ町駅へ集合し、出発式をおこなった後、常磐線と新幹線を乗り継いで約５時間の長距離移動でしたが、みんな最後まで元気に乗り切ることができました。移動中は新幹線の写真を撮ったり、車窓から見える東京スカイツリーに夢中になったりと、それぞれが旅の始まりを楽しんでいる様子でした。そして、ピースボートを目の前にした瞬間、「大きい！」と驚きの声が上がり、目を輝かせる子どもたち。
出航式では、泉田康貴さんが代表スピーチを担当し、多くの人に見守られる中でも堂々と話しました。
夕食では、クルーを相手に英語で注文することに挑戦。まだ緊張している様子も見られましたが、自分から名前を聞いてみるなど、一歩踏み出そうとする姿もありました。

７月２７日（月）／ Day2 ／洋上日



２日目は、一日船内研修。今日は、「このピースボートでできることは何か」をそれぞれが考え、実際に行動に移すことができた一日でした。船内で出会ったお客様に「人生で大切にしていること」「若いうちにやっておくとよいこと」を子どもたち自ら質問をしました。人生経験豊富な方のお話に真剣に耳を傾け、新しい価値観に触れることができました。
明日は広島へ寄港するということで、当時５歳で被爆された花垣ルミさんの体験談を聞き、「平和とは何か」について考えました。「戦争がない世界」「生き方が全く違う人とも笑い合える世界」など、それぞれが自分なりの平和を言葉にしていました。

７月２８日（火）／ Day3 ／広島



平和記念公園周辺でのスタディツアーを実施しました。まずは慰霊碑に手を合わせ、その後、被爆当時の地下部分が現存するレストハウス（旧燃料会館）へ。当時たまたま地下にいたことで命が助かった方の証言や展示を見学しました。
お昼には広島名物のお好み焼きを堪能し、いつも食べているお好み焼きとの違いに驚く声がたくさん聞かれました。
昼食後は原爆ドームと原爆資料館へ。教科書で見ていた建物や被爆者の遺品や再現映像など、実際に初めて目にする資料に、その存在感や歴史の重みを肌で感じることができました。子どもたちはさまざまな感情を抱き、中には胸が苦しくなり、言葉を失う子もいましたが、現地を訪れたからこそ感じられるものであり、平和な未来について考える大切なきっかけになりました。最後には、公園の木の根元へ水を注ぎ、原爆で亡くなられた方々への祈りを捧げました。
夜の会では、印象に残ったことをひとりひとりが共有し「爆発を再現した映像」「熱線の恐ろしさ」「遺品や手紙」「放射線による白血病などの健康被害」などが挙げられ、「つらくて思い出したくない」という率直な感想もありました。また、「放射線」という言葉から東日本大震災の原発事故を思い浮かべる子もおり、福島と広島を結び付けさらに放射線について学びを深めたいという意見も出ました。

７月２９日（水）／ Day4 ／洋上日

一日船内研修の今日は、朝から「今日は何に参加しようかな？」と船内新聞を見ながら、それぞれが興味のある企画を選びました。

ある子どもたちは、海洋プラスチックごみをアクセサリーなどに生まれ変わらせる「Ocean Upcycle プロジェクト」の紹介企画に参加し、実際に海に流れ着いたプラスチックごみがどのように新たな価値を持つ製品へと生まれ変わるのかを学び、海洋ごみ問題の深刻さを考えさせられる時間となりました。
乗船してからずっと楽しみにしていたプールにも入りました！「プールなのに海水なの!?」と驚きながら、時間いっぱいまで笑顔で遊び、大はしゃぎでした。船の上で入る海水プールは、普段ではなかなかできない特別な体験になったようです。
そして夜は船長主催のウェルカムパーティーが開催されました。浴衣や制服など、それぞれお気に入りの服装で参加しました。

７月３０日（木）／ Day5 ／洋上日



先日参加した Ocean Upcycle プロジェクトの企画をきっかけに、海洋プラスチックを使ったピンバッジ作りに挑戦した子どもたち。「どんなデザインにしようかな」と一人ひとりがイメージを膨らませながら、世界に一つだけの作品を完成させ、海洋プラスチックが新しい形に生まれ変わるアップサイクルを、楽しみながら学ぶことができました。
そして今日は、乗船前から準備を重ねてきた「福島県の魅力紹介」企画です。１００名を超えるお客様にご来場いただき、８人全員がプレゼンテーションを無事に発表することができました。発表後には、「とても良かったよ」「福島に行ってみたくなったよ」など、船内のたくさんのお客様から温かいお声がけをいただきました。子どもたちにとって、自分たちの言葉で福島の魅力を伝え、それが誰かの心に届いたことを実感できる、とても貴重な経験になりました。

７月３１日（金）／ Day6 ／基隆

オプショナルツアー【九份観光と平渓線列車】に参加。

６日目は、待ちに待った台湾上陸です。
最初に訪れたのは「十分」。「新人戦で勝てますように」「元気に過ごせますように」など、それぞれの願いが書かれたランタンが空へ舞い上がる様子はとても美しかったです。その後は、本場の台湾タピオカを味わったり、家族へのお土産を選んだりと、思い思いの時間を過ごしました。平渓線の列車では、車窓から台湾の自然を満喫。しかし、暑さや慣れない環境もあり、心地よい揺れに誘われて眠ってしまう子も。
その後は映画の舞台にもなったといわれる「九份」へ。昼食では大皿料理を囲み、日本ではあまり見かけない料理に最初は戸惑いつつも、一口食べると「美味しい！」とおかわりをしていました。食後はガイドさんの案内で九份の街を散策。なんと４００段以上ある階段を上り、暑さも相まって一番上に着く頃にはみんなヘトヘトでした。それでも、台湾らしい街並みや景色を楽しみ、日本との違いもたくさん発見しました。

８月１日（土）／ Day7 ／洋上日

午前中はプールに入り、今回の旅で２回目のプールを楽しみました。今日は特に日差しが強く、子どもたちはすぐに顔や体が真っ赤になるほど夢中で遊んでいました。暑さもありましたが、船の上でしか味わえない開放感の中で、新しくできたお友達と遊び、子どもたちも思い切りリフレッシュできたように感じます。
午後は特別にブリッジ（操舵室）を見学させていただきました。レーダーや計器が並ぶ様子に興味津々。巨大なパシフィック・ワールド号をどのように操縦しているのかを航海士さんから教えてもらい、実際に操縦桿に触らせてもらったり、停船する際に船の真下を確認しながら操船するための透明なガラス板の床にそっと立ってみたり。安全に航海するために多くの方々が連携して働いていることを学びました。

８月２日（日）／ Day8 ／那覇



オプショナルツアー【「沖縄美ら海水族館」観光】に参加。

朝から強い日差しが照りつけ、まさに灼熱の沖縄へ上陸しました。
まずは那覇港からバスで北上し、美ら海水族館へ。館内では大きな水槽を泳ぐ魚たちに子どもたちは大興奮。その中でも、ジンベイザメの「ジンタくん」は今年で飼育３１年目。私たちよりも長く生きていることを知り、その大きさだけでなく、長年大切に育てられてきたことにも驚いていました。イルカショーでは迫力あるジャンプや息の合ったパフォーマンスに歓声が上がり夢中になってショーを楽しんでいました。また、亀やイルカのぬいぐるみを買ったり、沖縄限定の飲み物やお菓子を見つけたりと、それぞれが家族や友達へのお土産を一生懸命選びました。
旅も８日目となり、長い共同生活の中で友だち同士の気持ちがすれ違い、関係がぎくしゃくする場面も少しずつ見られるようになってきましたが、そのたびに相手の気持ちを考えようとしたり、自分たちで話し合って解決しようと努力したりする姿も見られます。親元を離れた約２週間の生活だからこそ、お互いをリスペクトしながら生活することの大切さを学び、一人ひとりが少しずつ成長していることを感じる一日となりました。

８月３日（月）／ Day9 ／洋上日

９日目は、子どもたちにとって最後の船内研修日。今日は、福島こどもプロジェクト主催のゲーム大会を開催しました。１７人の子どもたちが集まり、ジェスチャーゲームや〇×ゲームをおこないました。初めは少し緊張していた子どもたちも、ゲームが進むにつれて自然と笑顔が増え、学年や学校を越えて交流する姿が見られ、とても盛り上がる時間となりました。
夕方からは洋上夏祭りが開催されました。たくさんのお客様が浴衣や甚平を着て、有志の方の発表を見たり、盆踊りを踊ったりと、夏らしい賑やかな雰囲気に包まれた船内を楽しみました。

８月４日（火）／ Day10 ／長崎



オプショナルツアー【軍艦島観光】に参加。

本来であれば軍艦島に上陸する予定でしたが、台風の接近により上陸は叶わず、周遊のみの見学となりました。しかし、長崎港の複雑な地形や、その地形を生かして発展してきた造船の歴史、世界遺産について話すガイドさんの言葉に、真剣な表情で耳を傾けていました。「こんな小さな島にたくさんの人が住んでいたなんて信じられない」と驚く声も。
ツアーのあとは、港から歩いて行ける大浦天主堂を見学しました。現在の日本では信教の自由が当たり前ですが、かつてキリスト教が禁じられ、多くの人々が苦難を経験した歴史について学びました。一方で、子どもたちからは「初めて教会に来た」「きれいだった」「なんだか落ち着く雰囲気だった」などの声も聞かれ、それぞれが歴史だけでなく、建物の美しさや厳かな空気を感じ取っていたようです。

８月５日（水）／ Day11 ／釜山、ピースボート下船

オプショナルツアー【釜山観光②】に参加。

参加するツアーは午後からのため、午前中は友達と一緒に朝食を食べたり、ギリギリまで荷物を詰めたりと、それぞれ最後の船内生活を過ごしました。

お昼頃ツアーに出発。韓国の景色は、たくさんのマンションが密集しているのが印象的で、子どもたちは「ズートピアの世界に来たみたい」と口を揃えて、驚いていました。龍洞山公園にある釜山タワーでは子どもたちが楽しめるようなプロジェクションマッピングのセクションがあり大はしゃぎでした。その後も「韓国のマチュピチュ」と呼ばれている甘川文化村や、食べ物やアクセサリー、服などの屋台が連なり賑やかな国際市場にも訪れました。
夜ご飯では本場の韓国料理である骨付きカルビを堪能。「初めてサムギョプサルを知って、美味しかった」などたくさんの発見や感動があったようです。



釜山に一泊し、明日はいよいよ帰国日です。初めて飛行機に乗ることに緊張している子、やっと家族に会えることを楽しみにしている子、「まだピースボートに乗っていたい」と名残惜しそうに話す子など、一人ひとりがさまざまな思いを抱えているようです。たくさんの思い出や学びを胸に、明日は南相馬へ帰ります。

８月６日（木）／ Day12 ／日本帰国

２０２６年夏「福島こどもプロジェクト」もいよいよ最終日です。
５時３０分という早朝の集合時間にもかかわらず、これまで毎回遅れてしまっていた子どもたちが、なんと最終日にして全員時間どおりに集合することができました。１２日間の生活を通して、一人ひとりが少しずつ成長していることを感じる出来事でした。
初めて飛行機に乗る子どもたちは、緊張した様子を見せながらも、「楽しみ！」と笑顔いっぱいで搭乗していきました。無事に日本へ帰国し、その後は新幹線や常磐線を乗り継ぎ、原ノ町駅へ到着しました。最後は原ノ町駅で解散式をおこないました。

１２日間、大きな事故やトラブルもなく、全員が無事に帰国し、それぞれの家へ帰ることができました。子どもたちは、親元を離れて仲間と協力しながら共同生活を送り、本当によく頑張りました。この旅で経験したことや出会った人たちとの思い出は、これからも子ども達の中で大切に残り続けることでしょう。

旅の成果

今回のプロジェクト参加を通して、子どもたちが得た学び

・クルーや国際的なお客さまとコミュニケーションを取るという実践を通して、英語が通じる楽しさを感じ、もっとうまくなりたい、もっと話せるようになりたいという学習意欲向上に繋がった。

・船内企画の「南相馬の魅力紹介企画」では、自分たちの住む地域を改めて学ぶとともに、相手に分かりやすくまとめて伝える、話すといった、表現力や伝える力が高まった。

・親元を離れての共同生活を通して、意見のぶつかり合いやすれ違いが起きたときにどのように自分の気持ちを相手に伝えればいいのか、どのように過ごせばお互いが気持ちよく過ごせるのかなど、問題解決方法を自分たちで考え、相手を尊敬し、思いやる大切さを学んだ。

・被爆者から直接体験談を聞き、被爆地を訪れその土地や建物、遺品などを実際に見ることで、教科書からは学ぶことが出来なかった歴史の重さや重要性を感じることができた。また「平和とはなにか」や「放射能の影響とは」を改めて考え、自分たちが今できることを考えた。

・人前で発表することや、自分の気持ちを伝え対話することなど、自分自身が「苦手」と思っていたことに勇敢に挑戦し「自分にもできる」という経験を重ねることができた。

◆参加した子どもたち、保護者の声（感想文より一部抜粋）

子ども達より

「広島に行き、戦争という悲惨さを学んできました。とても悲しくなり、とても腹が立つ光景でした。広島、長崎と二つの県に落ちてきて、凄く最悪な日なんだと気づきました」

「家に返ってからお母さんに『八月六日前に手を合わせて来れたことが良かったね』」と言われ貴重な経験が出来たことと知り広島に行けて良かったです」

「５階のレストランは、英語で注文するのが大変でした。それと、マナーについても勉強した方がいいなと思いました。でも、普段は食べれないような食べ物が食べられてよかったです」

「船内の様々な企画に参加をして学んだことで、この船は挑戦する心を成長させてくれると思いました」

「毎日いろんなイベントがおこなわれていて時間があっという間に過ぎていきました。青い海、青い空、白い雲、まるで夢のような時間でした。僕はあの水平線の光景を忘れることはないでしょう」

「プサンでは焼肉を食べました。初めての韓国料理を食べ、とてつもないおいしさに舌がビックリしました」

保護者より

「広島では、語り部の体験談や当時の写真を目の当たりにし、あまりの悲惨さに強い衝撃を受け、平和への想いを抱いていました」

「出発する時は緊張しながら出発をして行きましたが、帰って来た時の姿は少し成長を感じました」

「途中で送られてくる写真から娘が心から楽しんでいる様子が伝わりとても嬉しく感じました。海外での観光や買い物など、普段ではなかなかできない経験も娘にとってかけがえのない学びになったと思います」

「話を聞いている中で驚いたことは、船内でインタビューに応じたということです。突然の質問にもしっかり答えることができた事で自己肯定感が高まった様子です」

「南相馬から一緒に行った子達以外の子とも仲良くできて、いろんなコミュニケーションがとれたことは、すごくいい経験にもなったと思います」

「一緒に参加した子ども達と大きな船で寝食を共にし、夜おそくまで語り合ったり、時にはお互いの個性をぶつけ合いながらもおもいやれる仲間に出会い一生に残る経験ができたことをうれしく思います」

◆引率スタッフより

ピースボート日本一周クルーズ２０２６夏にて、福島県南相馬市の中学生８名の引率を担当いたしました、西恵美莉です。
この１２日間は、私にとって単に「子どもたちを引率する」という言葉だけでは表せないほど、多くのことを学んだ時間となりました。参加した８人は、まるで１クラス分の元気さと個性を凝縮したような子どもたちです。最初は固まって行動していた子どもたちも、日が経つにつれて船内の仲間たちと打ち解け、自分たちで過ごし方や楽しみを見つけていきました。
その一方で、共同生活の中では言い争いやトラブルなど、毎日のように課題も生まれました。保護者の代わりであり、責任者でもあるプレッシャーを感じながらも、私は「相手の気持ちを考えた言葉の伝え方」を子どもたちと一緒に考え続けました。最初は感情をそのままぶつけていた子どもたちが、日に日に互いを尊重し、心配し合い、周囲に気を配れるようになっていく変化は、とても印象深かっ

たです。
現在大学３年生の私にとって、講義だけでは決して得られない「人と真剣に向き合うことの難しさと大切さ」を学ぶ大きな機会となりました。子どもたちを支える立場でありながら、私自身が彼らから教わることが本当に多い１２日間でした。
最後に、大切なお子様を送り出してくださった保護者の皆さま、温かく支えてくださったピースボートスタッフの皆さま、そして船内で見守り応援してくださった乗客の皆さまに、心より感謝申し上げます。

（南相馬子どものつばさ引率スタッフ　西 恵美莉）

◆ピースボートより

慣れ親しんだ家族や学校を離れて過ごす１２日間は、子どもたちにとって刺激的でもあり緊張もする期間だったと思います。そんな中で、人と向き合い話し合うこと、「舞台」という場所に立ち人前で発表すること、はじめましての人にインタビューしてみたり逆にインタビューされたりすることなど、多くのことに挑戦している姿を見ました。子どもたちが積極的に楽しもうとする姿をみて、迎えた側としてはとても嬉しく思いました。
また、戦争遺構から学ぶ被爆の実相や、その土地がもつ歴史や文化は、子どもたちにどのように映るのか、受け止めきれるのかと心配な部分もありましたが、被害に心を痛めつつも平和について真剣に考える姿や、建物が放つ迫力に魅了されている姿をみて、自分たちなりに考え理解しているんだと伝わり安心しました。
プロジェクトで集まった８名は、時にはすれ違いぶつかることもありましたが、西さんや私を交え、周りのサポートを受けながら相手を尊重し思いやり、お互いに心地よく過ごせる距離感を考えていきました。私自身も子どもたちの素直な考え方に多くのことを学びました。
「人とととことん向き合う。向き合うことができる」という経験は、今後どんな場所に行っても通用すると思っています。今回のプロジェクト参加で感じ学んだ経験が、いつか子どもたちのなかで理解を深めることに繋がってくれればいいなと願っています。
このプロジェクトを選んで参加してくれた子どもたち、そして送り出し陸から見守ってくださった保護者の皆さまと南相馬子どものつばさの皆さまに感謝申し上げます。

（ピースボートスタッフ 橋本 舞）

◆南相馬子どもつばさより

東日本大震災および原発事故から１５年が経過いたしました。復興も進み、かつての平静さを取り戻しつつある今、私たちは次のステップへ踏み出すべく、これからの地域を担う若者の育成に力を注ぐ必要性を強く感じております。当団体「南相馬子どものつばさ」では、子どもたちに未知なる世界との出会いを通して見聞を広めてほしいと願い、ピースボート様のご協力のもと、パシフィック・ワールド号への乗船機会を設けていただきました。
今回の１２日間にわたる船旅で、子どもたちは忘れがたい貴重な体験を得ることができました。活気あふれる台湾や韓国では異文化に直接触れて世界へと視野を広げ、古くからアジアとの貿易拠点であった沖縄ではその歴史を学び、広島や長崎では平和の尊さについて深く考える機会をいただきました。また、各地の食文化や魅力に触れたことは、子どもたちにとって大きな刺激となったようです。さらに船内では、スポーツ大会をはじめとする日々の趣向を凝らした企画に参加し、全国や世界から集まった仲間たちと絆を深めました。「水先案内人」として乗船された著名な方々との交流を通じ、多様な生き方や価値観に触れるという、日常では決して得られないかけがえのない学びを重ねることができました。
旅から戻った子どもたちは一層頼もしくなり、船上で得た出会いや体験について目を輝かせながら語ってくれております。広い世界を体感したこの「ピースボート福島子どもプロジェクト」での経験は、これからの人生を歩む上での大きな自信となり、将来への希望を描く確かな糧となったと確信しております。
改めまして、子どもたちにこのような大きな成長の機会を与えてくださったピースボート様、ピースボート災害支援センター様の皆さまに心より重ねて御礼申し上げます。 貴団体の今後ますますのご発展と、皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

（南相馬こどものつばさ事務局長　佐藤 慎治）